

發行編輯人 川崎文治 福島縣石城郡平町字長橋町五番地  
印刷所 常盤毎日新聞社

定価 一月一元二角 三月三元五角 半年六元五角 一年十二元  
電話 二二二二番

刊夕日五十月七

### 常盤文藝

#### 高月會

愛し子の身の丈けしるし更衣 松童  
衣更へて帯に氣をもむ女哉 不染  
山僧の身淨め水や更衣 排影  
歸休兵訪つる門を更衣 同  
玄關に下駄正しあり更衣 更石  
更衣自と指に掌 同  
更衣ふと立止る帽子店 同  
通學の白帽つゞく更衣 紅陽  
衣更へて見る前山や深翠 雪村  
人の娘の家風に慣れし更衣 大北  
年だけて母に似る娘や更衣 牛玉  
桃の實の赤く目立つや更衣 夢吉

#### 紹と紗の形中

◇暑さが日に増し烈しくなるにつれ、日中の訪問、夕べの散歩に薄物が歓迎されます。  
◇粹向な真に薄、涼味溢る、柄合の紹と紗の中形……紺地に緋、納戸地に光琳模様、四圓に四圓八十錢、五圓八十錢と揃つて居ります人氣ある店龜田屋……電話五十七番へお掛け下されば直ぐ持つて参り御覽に入れます。

#### 看護婦派出的の求めに應ず

平町南町 平看護婦會 電話三〇七番

#### 錦流 琵琶教授

水會本部 平手錦鞭 平町六十五番地

#### 銘酒 柏大

水の果實密は 東京製品特に 勉強仕候 柏木支店 平町字長橋町

#### 開設 大村や

料理御 大村や 那役所横通 旅大村屋 平町二丁目 (電話一七五〇)

#### 農村問題所感

健闘生

農村救済問題の解決は到底一朝一夕を以て目的を達し得るやうな性質のもではないと思ふ、勿論農村問題は大体に於ては經濟問題である従つて、これが解決は農村經濟問題の解決言ひ換へれば、農民生活問題の事實現在の農村は如何に努力しても、その經濟は成り立て行かないのであり、から先緊急の對策として負擔の軽減を計り、低利資金を融通し産業組合を發達せしむる等の種々なる手段に依

#### 寄附者芳名廣告

合計壹千五百貳拾五圓  
一金參拾圓  
一金參拾圓  
明野 勇 吉殿  
明智 淺 吉殿

累計壹千五百八拾五圓也  
本廣告ヲ以テ領收書ニ代フ  
大正十三年七月十四日  
大瀧發電所 許可反對 同盟會

#### 町平船吉田眼科醫院

時候適品!!!

友仙モス (一尺)	十二錢
白綿格子 (一尺)	八十九錢
手拭地 (一尺)	八十五錢
白染緋 (一尺)	一圓廿五錢
紺染緋 (一尺)	一圓卅五錢
モス着尺 (一尺)	五圓三十錢
紺羽織地 (一尺)	五圓五十錢
其の外銘仙、洋傘、小紋錦紗上布、帶地類、紋付類、綿絹布類一切	橋土町平城磐

店服吳屋鹽 番一十二話電

#### 牛肉と葡萄酒

米國スエット會社一號  
コンビーフ牛肉 正味九十 夕入一罐 金四十錢  
大黒葡萄酒 正味 金一圓七十錢  
洋酒 諸食料品商  
西村屋藥舖 平町二丁目 電話三番

#### 外交員募集

業務簡易月収百圓以上あり  
各自居室に在りて本店との連絡取れ  
御希望の方は履歷書持参の上御來談あれ外に優遇の方法あり  
平町南町二〇(公會堂角)  
日本勸業債券通信社  
福島無盡株式會社  
平町代店 大谷保太郎商店  
現物買取株式會社 電話三三四番

#### 株賣買中値

左記の値段は日本の標準値に付御用の節は御問合願候

錦格	拂込	時價
磐城銀行	五〇〇	五三五
平銀行	五〇〇	七一〇
磐城銀行	一一五	一〇五
磐城銀行	五〇〇	四三〇
磐城銀行	三〇〇	二九〇
田村銀行	一一五	一一五
四倉銀行	一七五	一七五
農工銀行	二〇〇	二四五
同新	一五〇	一八八
百七銀行	五〇〇	五五〇
同新	一一五	一六〇
七七銀行	一一五	九八
郡山電氣	五〇〇	三六五
同新	二五〇	一六〇
只見川電	一一五	一五五
植田水電	一一五	一三〇
好問水電	一一五	一五〇
磐城建物	一一五	一五〇
磐城製菓	二〇〇	四〇〇
平信託	五〇〇	二五〇
磐城勸業	一一五	一三五
植田物産	三〇〇	二六〇
平製氷	二五〇	二二〇
好問軌道	五〇〇	三三〇
入山新	三二五	一七〇
小田炭礦	二五〇	一七〇
磐城炭礦	五〇〇	一八〇
同新	二二五	一八〇
磐城セメント	五〇〇	六四五
同新	二五〇	三四五
平運送	一一五	八〇

#### 丸登株式會社

川添房二郎

代教育の弊害が生んだ農村嫌忌の思想が斯くは農村を禍してゐるのであると思ふ最も近い例が彼の結婚に現る、種々相であるが農村の子女にして稍教育を受けたものは假令資産を有し自ら野に耕す必要なき家でも單なる農といふ字に嫌忌して嫁ぐ事を肯じないで却つて資力なき薄弱なる月給生活者の方へ走るといふのが現在の事實である、そしてこれは單に女子のみの現はるゝ問題ではないのである、農村から人材の逸失するのは必ずしも經濟問題からばかりでない事は判る是れ如何と云ひば現代教育の缺陷が招いた弊害であると思ふ

### 野崎氏の態度に依り 形勢極めて暗雲低迷

人心益々悪化の傾向がある 待たるる成行き

既報小田炭礦の大瀧發電所問題に關する重役會議に於ては舊許可地に發電所を設置すべき條件にて新許可地たる大瀧發電所の水利權は是れを全々放棄すべく決定し、平電氣前專務取締役栗原欣次郎氏に此意を傳へ同氏また此舉に贊

### 叫ぶ背後から 一脈の涼風

連夜の路傍演説に疲勞し盡した體を昨夜も三井吳服店前に運んで一町民として大瀧發電所反對の叫びを擧げました際終始背後から扇子を以て涼風を送つて呉れたお方がありました。あの際であつた爲めに遂にお名前を聞き洩らしましたが斯くの如く町民の總べてが目的達成の前に熱意を表せらるるは隨所に見る處であります。私共としては非常な力強さを感じると共に一層平町百年の大計を立つる爲め奮進せねば止まぬ決心を振ひ起します。

常警毎日新聞社 社長 川崎文治

せしと雖も專務取締役野崎満藏氏の意嚮を確かむべき要ある爲め野崎新專務の出張先に對し「スグカヘレ」と打電せる結果昨夜上り最終列車にて歸平し種々折衝を重ねたるも野崎氏は「自分の經營する會社の利益を永久に放棄す

筈であるが平庭球俱樂部より(前澤) (阿部) (根本) (廣瀬) (奥津) (篠塚)の三組出場と決定目下炎熱下に猛練習中である

### 平光影會の 入選寫眞決定

來月は海岸に 平光影會主催寫眞展覽會の入選者は

### 發電所問題一進展か

本日町長と同盟會幹部が 重要件の打合せを

伊坂町長は本日午後二時頃町長室に大瀧發電所許可反對同盟會幹部を招き是れより先き同盟會に關して役場を訪れたる青沼隆太郎、漆畑元吉兩氏の意志を傳へ同盟會幹部の意見を徵する處あつたが同盟會内容に就いては勿論問題解決に關する重要件にして或は此會見に依つて問題は茲に一進展を來すかも知れない

### 海岸地 悲喜交々至る

石城地方の海岸地は打續くカテイラン

### 選手權大會 平庭球出場

日本軟球協會主催第二回全日本球式庭球選手權大會は愈々來る廿九、卅の兩日東京帝大コートにて行はれる

### 常磐片々

逆巻く激流は如何なる力を以つてしても是れを止むる難し

已れの力を過信し盲蛇の行動に出でんとする野崎君よ此際冷静に熟慮一番を要す

### 電燈の明るさ

電燈の明るさに就て、これまで研究されて來た標準光度は、勿論天井、壁などの色や反射の如何に依つて違ひ

ますが、大體一燈に對して五燭乃至十燭とされております例へば六燈ならば三十燭が最低の標準なので

結果に、よると、その平均は大都會に於て一燈當り二燭であつた、之では却つて眼を害するやうなものです、殊に、一般が心得違ひをしてゐるのは

### 臺所や 便所といふ

所を暗い電燈で我慢してゐることですが、かういふ所こそ明るい光線をこつて清潔にしなければならぬ筈だと思ひます、それは、かゝる所は点火

### 時間が

少いのでありますから、明るい球をつけてもメーターにはあまり影響がないわけですが、わけて臺所は流し臺の眞上にブラケットをつけて点火する時は少しのよごれもよく眼につき、物を綺麗に片づけることができて非常に

### 衛生的

であります。なほ明るく經濟的であるといふ所からガス入電球といふ

### 名濱泉方部の 水田は

水田は、一帶に慘めな龜裂で雨乞ひの祈禱も一向に驗がなく炎熱下の汲水では埃を濕めす程にも足らず小名濱方部では泉村との境界に流れる藤原川から二臺の電氣動力ポンプを以つて揚水すべく目下

### 不平受付

電話の交換 先日他の店から私の店へ電話を幾度も掛けて呉れたのでさうです。お話中にて通話が出来なかつたので、使を走らせて来ました。しかし其頃の時は、私の店に他は電話を以つて通話致して居らなかつたので、是れは交換手の不親切に依るものではなかつたか(無名氏)

### キヤベージの 即席漬

キヤベージをむいて莖の太いところを切りとり、小口から細く刻んでうすく鹽をふり、かるくもんでしばらくおきます、それを布巾に包んで固くしばり、生美醬油をかけて頂きますとおいしいです。

Table with 2 columns: Item Name (品名) and Price (價格). Items include rice, flour, and other daily necessities.

ふものが近頃大層歡迎せられますが、これには似非物があるから注意しなければなりません、点火して五六分もたてば球が熱して手を觸れる。これも出来ないうやうなのは本物のガス入電球です同じ熱しても手で持つことのできやうなものには怪しいと見て差支ありません

### 町内人事

- 出生: 立町 宮利喜松氏長男政英, 朝原 吉田金作氏二男敬治, 紺屋町 草野金太郎氏二男博, 古鏡治町 石井龜吉氏三女ハル子, 鎌田町 伊藤留吉氏四男正夫
- 婚: 一丁目 宮利喜松(七), 石城郡四倉町長谷(七)
- 死亡: 鎌田町 小林孝一(七)